

崩壊して行く福祉国家デンマーク
そして我々に残された

幸福度 **No1** のレシピ



販売価格 ¥840 (税込み)

著作権：キム・ペーダセン © 2012 V4.001

読者コメント：

祖国デンマークの状況を厳しくも暖かく見つめる眼。
そこには育った国、日本の近い将来を憂えるだけでなく、
確かな「希望」を持って警告しようとする強い姿勢が感じられました。
知りたいと予てから思っていたデンマークのことを
知ることが出来、良かったと思っています。

非常に具体的なパラメーターを示しながら幸福や自由、
民主主義について語られているので説得力がありました。

幸福、自由、民主主義というのは根本的な問題でありながら
複数の社会を見たことのない人間にとっては比較のしようのない点でもあり、
また最終的には特定の文化や宗教との関係において考えなくてはならない点も多いので
キムさんの意見はそれだけでも貴重です。

労働の問題、幸福、福祉などキムさんの意見は
日本人にとって非常に貴重なものばかりだと思います。

とても興味深い内容でした。
キム様の書籍のようなニュートラルな情報はとても貴重です。
私はデンマークや北欧諸国を正しく知りたいと思っています。
良い点だけを見てちやほやするのではなくて、良い事も悪いことも
正しく知る事で本質的な関わり方ができると思うのです。
また、気質的には正反対と思われる北欧の人たちとうまく関わっていけば、
日本の停滞した部分を変えていく
一つの良いきっかけになるような気がしています

興味深く読みました。

評論家ではない、キムさんの経験に基づいた、
デンマークと日本のリアルな側面を細かく描写していて
一気に読了しました。

キムさんのような見方もリアルにある、とはじめて知ることが多く、
デンマークも日本も光と陰がどちらもあり
完全国家などは改めてないのがよくわかりました。

目次

| | | |
|--------|-----------------|----|
| 1. | はじめに | IV |
| 1.1. | この本について | IV |
| 1.2. | 筆者について | V |
| 2. | デンマークとはどんな国 | 1 |
| 2.1. | デンマークの基本知識 | 1 |
| 2.2. | 地理、気候、人口 | 1 |
| 2.3. | 宗教、寿命、教育レベル | 2 |
| 2.4. | 経済、産業、エネルギー | 3 |
| 2.5. | デンマーク政治の歴史 | 4 |
| 2.6. | 日常生活、食生活 | 7 |
| 3. | 現代福祉の現状と背景 | 14 |
| 3.1. | 福祉の歴史 | 14 |
| 3.2. | 高齢化と高齢福祉の今後 | 19 |
| 3.3. | デンマークの労働環境 | 23 |
| 3.4. | 動物愛護/動物福祉 | 27 |
| 4. | なぜ高負担でも幸福度が一位？ | 30 |
| 4.1. | 高負担 | 30 |
| 4.2. | 何をもって「幸福」なのか | 34 |
| 4.2.1. | 平和 | 36 |
| 4.2.2. | 社会保障システム（福祉、医療） | 36 |
| 4.2.3. | 高い民主主義度 | 38 |
| 4.2.4. | 言論の自由 報道の自由 | 43 |

幸福度 No1 のレシピ

| | | |
|--------|-------------------------------------|-----|
| 4.2.5. | 高い自由度 | 47 |
| 4.2.6. | 労働環境 | 53 |
| 4.2.7. | 幸福度の結論 | 56 |
| 4.3. | デンマーク人独特の価値観（danske værdier）は存在するのか | 57 |
| 4.4. | デンマークの教育 | 64 |
| 4.4.1. | 教育の歴史 | 64 |
| 4.4.2. | 価値観とその移り変わり | 67 |
| 4.4.3. | モラルの崩壊 | 76 |
| 4.5. | 外国人問題 | 82 |
| 4.5.1. | 後世にはどのような社会を残したいか | 82 |
| 4.5.2. | イスラム教が与える影響 | 84 |
| 4.5.3. | 風刺画問題 | 89 |
| 4.5.4. | カルチャーインデックス | 99 |
| 4.5.5. | 外国人問題のまとめ | 101 |
| 5. | 経済の福祉への影響 | 103 |
| 5.1. | EU 経済の今後の見込み | 103 |
| 5.2. | デンマーク経済の見込み | 106 |
| 5.3. | 企業成長を妨げる環境 | 107 |
| 5.4. | 不動産経済 | 108 |
| 5.5. | 失業率 | 113 |
| 5.6. | 個人消費/預金 | 116 |
| 5.7. | グローバリゼーション | 118 |
| 5.7.1. | グローバリゼーションのディレンマ | 123 |

幸福度 No1 のレシピ

| | | |
|---------|------------------|-----|
| 5.8. | 政治家の経済意識 | 125 |
| 5.8.1. | ユーロは絶対に守る | 125 |
| 5.8.2. | 失業率 | 126 |
| 5.8.3. | 政治家の金融危機への対応 | 126 |
| 5.9. | 農業/産業 | 127 |
| 5.10. | 経済後退イコール福祉崩壊の始まり | 128 |
| 5.10.1. | コスト削減 | 128 |
| 5.10.2. | 税収を増やす | 130 |
| 5.10.3. | 国債発行 | 130 |
| 5.11. | 経済結論 | 130 |
| 6. | 後書き | 132 |

4.2.3. 高い民主主義度



民主主義は一瞬で築かれるものではなく、しっかりしたものが出来上がるのには時間がかかる。先進国同士を比較しても、「民主主義がうまくいっているかどうか」は国によって大きく異なる。民主主義の基本である「人権」を始め、「言論の自由」、「健全な政治競争」などが守られているかどうかを比較すると先進国同士でも差が出る。上記でも書

いたが、デンマークは世界で最も民主主義度が高い国であるという事が[チューリッヒ大学の調査結果](#)として出ている（参考までに調査対象の 30 カ国中日本は 25 位）。一位を占めている原因となる要素は高い自由度、高い平等性、国民の政治への積極的な高い参加率、情報開示による決断過程の透明度が高い事、そして政府の力が非常に制御されている事が挙げられている。ある別の「高い民主主義度の定義」としてこういう説がある（意識）：

「高い民主主義度とは民主主義がライフスタイルや習慣として浮上する事であり個人が積極的に参加する事として現れる。個人が要求できる権利のセットとは大きく異なる。」

国民一人一人が積極的に民主主義に参加し影響を与えている事が高い幸福度に繋がっているのだ。政治に限らず地域の団体や職場でもこの基本は同じである。



デンマーク国内の幸福度調査は見かけないが、デンマークの文部省では 2005 年に面白い調査を行っている。この調査は世界に類が無いもので、国民の能力/リソース/資源を調査したものである。この国民能力評価では、リテラシー、学習能力、自己管理能力、創造力とイノベーション能力、文化（異文化）能力、環境、健康、社会的関係、コミュニケーション能力と民主主義能力の 10 の要素が調査されている。文部省のレポートには英語で下記のように説明されている：

The National Competence Accounts are a development project indicating new ways to analyse human resources. The Accounts map out ten key competences regarding literacy, learning, self management, creativity and innovation, culture,

幸福度 No1 のレシピ

environment, health, social relations, communication and democracy – factors impacting growth and welfare. In addition, they include a presentation of three theme analyses, which illustrate competence policy issues within the areas of corporate innovation and competence, the seniors in the labour market and people with short formal educations. In this way, the Accounts include a situation report listing strategic competence challenges.



つまりこれは国民のリソースを計る新しい方法として考えられた調査である。また、社会が発展し高福祉を維持する為には国民がこの 10 の要素の高いスキルを持っている必要があるというのだ。例えばリテラシーというのは単純に読み書きの能力を計っているのではなく、読んだ資料の理解度、そして読んで理解した情報の処理能力を計ろうと

しているのだ。単純な読み書きの基礎知識は民主主義では前提である。「高い」民主主義度はそれなりの情報処理能力（リテラシー）が無ければ得られないというのだ。私が知る範囲ではこの「国民能力調査」はデンマークでしか行われていない。また 2005 年の一度のみ行われている。そのため、残念ながら他国との比較は出来ないしデンマーク国内の傾向も計れない。しかしこの「国民能力」は民主主義度と大きく関係している事、そして民主主義度が大きく幸福度に関係している事からも世界各国でこの調査を行えばより正確な幸福度の指数が出るのではないかと思う。

この「国民能力調査」の 10 の要素を簡単に纏めてみた：

◇ **リテラシー**

書かれた情報を理解し処理する能力（IT と言語能力）

◇ **学習能力**

新しい知識を取得出来る能力と意欲

◇ **自己管理能力/自発能力**

幸福度 No1 のレシピ

自発的に会社や社会の方針に従って決断し実行する能力と意欲

◇ 創造力とイノベーション

知識や技術を必要とする分野での革新を実現させられる能力

◇ 社会能力

他人との関係を築き、他人の気持ちを理解し、自分の気持ちも表現できる能力

◇ コミュニケーション能力

受け取る側に意味のある理解可能な、効果あるコミュニケーションを築く事ができる能力

◇ 文化/異文化能力

複雑な文化要素を理解し、異文化と開放的な会話に従事する能力

◇ 民主主義能力

個人が参加している範囲で決断に影響を与えられる能力と意欲

◇ 健康能力

健康的な状況を作り、維持し、場合によっては改善する能力

◇ 環境能力

知識とモチベーションをエンジンとする環境の改善策を提供できる能力



如何だろうか？ぐっと来るものがあるのではないだろうか。デンマークがあるべき姿と考える社会、高福祉を維持し、経済的に発展する社会の基盤は上記要素が高い国民が多い事なのである。じっくり考えて頂きたい。自分は果たしてこのような評価をされるとしたらどの程度のレベルなのだろうか。日本人がこのような基準をもとに評価された